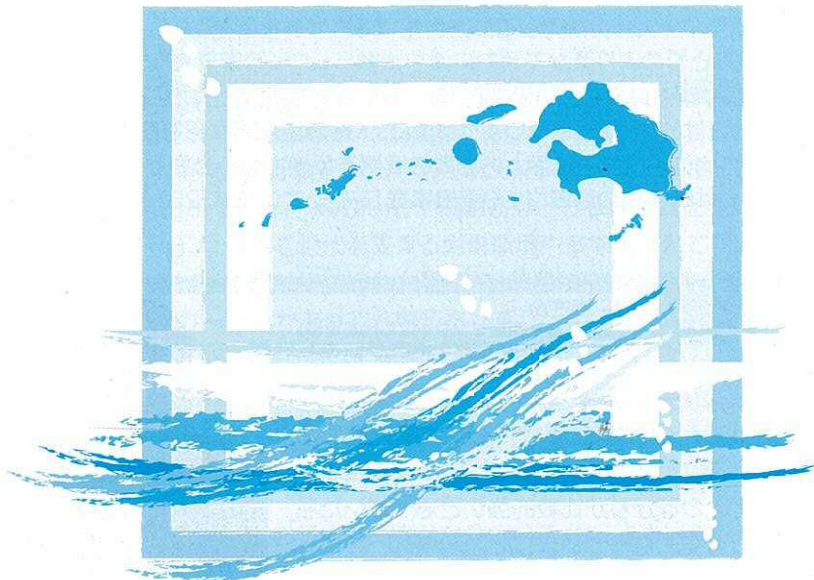


ハーモニー

鹿児島県男女共同参画センターだより



2012.3
Vol. 22

特集 「地域づくりと男女共同参画」

■ グループ紹介 鹿児島ウーマンライフ研究会（鹿児島市）

■ 2011年度のセンター事業から

■ 男女共同参画に関する県民意識

■ トピックス 男女共同参画地域推進員

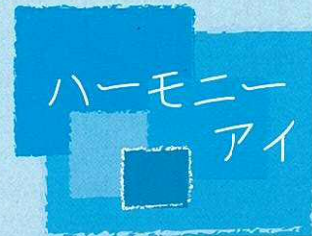
■ サポーター'Sコーナー

■ 相談室から 東日本大震災から1年

■ 2012年度のセンター事業

■ 新着図書・DVD情報

■ ニュース デートDV防止等啓発ハンドブック



多様な一人ひとりから始まる地域づくり ～政策・方針決定過程に女性の参画を～

日本は、女性の政治や経済活動への参画状況を測るジェンダー・エンパワーメント指数（GEM）が109か国中57位（2009年公表）など、政策・方針決定過程への女性の参画は、他の先進諸国に比べて低い水準にあり、その格差は拡大しています。

これは、固定的性別役割分担意識や女性の能力に関する偏見が根強いことに起因していると考えられます。

男女間に高等教育機関進学率の格差や大学専攻分野の偏りが存在。女性は未だ新卒でも就職が男性に比べて不利で、非正規雇用が半数以上。割り当てられる仕事は周辺業務が多く、キャリアアップの機会は限られ、昇進は男性より遅い。家事・育児負担は女性に重く、出産を機に6～7割が仕事を辞め、その後の再就職はままならない。そのような現実が、専門職や技術職、管理職に女性が極めて少ない状況を生んでいます。にもかかわらず、これまで、女性自身の意欲や能力といった個人的な問題ばかりが問われてきました。

女性がガラスの天井の下で、夢をあきらめたり、意欲を萎めて折り合いをつけないと生きられない社会は、男性にとっても、決して生きやすい社会ではありません。

2010年度の47都道府県別GEM*で、本県は46位です。この現実を重く受け止め、センターと民間団体が協働で、女性の議会議員や自治体職員の力量形成を図る「地方自治を担う女性のエンパワメントセミナー」を開催しました。

女性の参画の困難さは、一人ひとりの安心・安全な暮らしの実現を阻む人権問題であり、地域経営のマネジメントにとって解決すべき極めて重要な課題です。様々な属性を超えた一人ひとりが、地域づくりに貴重な「人材」として参画することで、真の地方自治が実現し、豊かな地域が創造できるのではないのでしょうか。

*佐賀県男女共同参画センターが、都道府県・市町村議会議員、自治体や事業所の管理職、専門・技術職に占める女性の割合及び男女の所得格差から算出

「地域づくりと男女共同参画」



県では、これまで男女共同参画の知識の普及や意識啓発、推進役となる人材の育成、男女共同参画社会の形成に影響を及ぼすDV等個別課題の解決等に取り組んできました。

しかし、これらの男女共同参画社会の実現に向けた取組が、少子高齢化・過疎化の進行、地域社会を取り巻く社会経済情勢の変化に伴う雇用環境の悪化や商店街の衰退、一次産業の担い手不足、引きこもりやニートその他生活に困難を抱える人の増加と貧困化、家庭における育児・介護の困難やDV・虐待の発生、犯罪や災害の危険などの多様化・複雑化する地域課題の解決に重要であるという認識は未だ十分浸透しておらず、地域課題の解決を困難にしています。

また、「日本一のくらし先進県」をめざす本県においては、県民一人ひとりのより豊かで活力に満ちた暮らしづくりを支えるために、地域コミュニティやNPO等と協働して、地域課題の解決に向けた地域づくり事業を推進しています。

このように「公助」のみでは担いきれない地域課題に対応するためには、あらゆる地域づくり事業に、人権尊重と男女平等を基盤とする男女共同参画の視点を通すことにより、一人ひとりを深く見据えて、複合的に顕現する生活上の困難の実感を反映させる必要があります。

そのため、当センターでは、そのモデルとなる取組を支援する「男女共同参画の地域づくり協働事業」を行っています。2011年度にこの事業を実施した2団体の取組を紹介します。

つながりを築く男性の居場所づくり

上村 修さん
(NPO法人福祉相談センターにじ代表理事)



● 地域との関わりが薄くなっている住民の姿

私たちの団体は、南九州市頰娃町で介護サービスの提供やボランティアの人材養成等を行っています。活動の拠点である馬渡地区は、世帯数約190世帯、人口約380人。そのうち60歳以上が52%、70歳以上は35%を占め、少子高齢化と人口減少が進んでいます。住民同士のつながりが比較的強いと思っていた私たちのまちでも、地域との関わりが薄くなっている男性がいることが気になっていました。

● 男性の居場所が少ない

デイサービスや公民館の生涯学習活動等の公的サービスに馴染めない男性が多く、利用者は女性が中心で男性は参加しづらいです。また、仕事中心だった男性の中には、地域でネットワークを築けていない人が少なくありません。地域に男性が気軽に立ち寄れる居場所が少ないという課題が見えてきました。

● ともにつながりながら生きるために

そこで、県の事業を活用し、私たち団体と西馬渡・東馬渡の両自治会が協働で、周囲の見守りが必要な男性も定年退職後の元気な男性も、誰もが地域でつながりながら生き生きと暮らし続けられるための、緩やかで、穏やかな「男性の居場所づくり」を行うことにしました。

活動の主たるメンバーは60代を中心に約40名の男性。まずは、住民から土地や建設用古材、備品を提供してもらい、皆で「男談小屋」づくり。地域の男性同士あるいは子ども会等と一緒に、棟上げ式や桜の植樹、そば打ちなどを行ったり、視察研修や男女共同参画の学習を兼ねた座談会も実施しました。また、活動の様子を伝える「だんだん通信」を全戸に配布しています。小屋ができたことで、男性たちは、顔を合わせる機会が増え、地域の課題について議論することも多くなりました。

みんなで男談小屋づくり



子どもたちとの交流



「だんだん通信」第1号

● 地域は人材と資源の宝庫

事業を通して、今まで知っていると思っていたのに実はあまり知らなかった地域の男性一人ひとりが見えてくると、大工やそば打ち、魚釣り、野菜作り、パソコンなどの得意分野をそれぞれが持っていることがわかりました。その特技と身近にある豊かな自然や資源を活かし、自ら大いに楽しみつつ活動を行っています。特に子どもたちとの交流は、これからも春は桜の花見、夏はラジオ体操やキャンプと、楽しみはつきません。子どもたちが、安心できる大人を見守られていると実感できる地域を作っていきたいと思います。

● 憩いの場「暖談小屋」を目指して

小屋の環境整備や活動に必要な資金を確保するために、今後は、皆で耕作放棄地で芋やそばを生産すれば、地区の環境整備につながり、高齢者の生きがいづくりや子どもたちの学習の場にもなると思います。また、声をかけてもなかなか小屋に来られない男性には、出番づくりを考えたり、見守りが必要な男性にはゴミ出しなどの生活支援ができればと考えています。

なお、女性の中にも見守りが必要な人や公的サービスに馴染めない人がいる一方、世話好きな人もいます。今は男性たちにとっての「男談小屋」も、将来的には、地域の老若男女がつながり合い、支え合う憩いの場「暖談小屋」になることが理想です。

豊富な人的資源を活かし、男女共同参画の視点を立てた確かな実践活動を

福永 秀子さん
(男女共同参画あまみ会議会長)



● これからの活動の方向性を探り、地域づくり事業をスタート

男女共同参画あまみ会議は、前身のあまみ女性会議を含めると19年間、奄美市(旧・名瀬市)における男女共同参画の啓発活動を担ってきました。

しかし、ここ数年、活動のマンネリ化や市民の男女共同参画への理解が広まらない・深まらないといった行き詰まりを感じていました。そのため、今回の県の事業を好機ととらえ、男女共同参画の視点を立てた地域課題解決型の実践活動を模索することにしました。

● 多様な立場を生きる人が、複合的に生活上の困難を抱えている

まず市民の現状把握を目的に、12回にわたるグループインタビューを約100名の市民を対象に実施しました。これによって得られる市民一人ひとりの声を奄美市が策定中の男女共同参画基本計画に反映させて、実効性のある計画にしていってほしいという思いもありました。

この結果を分析すると、①障がい者や高齢者など社会的困難を抱えている人の生活しやすい環境整備が不十分、②子育て世代を支える労働環境や多様な子育て状況に対応できるサポートシステムも充分ではない、③仕事に追われ経済的・時間的にゆとりある暮らしが厳しい状況にある人が多い、④支援サービスがあっても周知されず、サービスが本当に必要な人に届いていないなどの問題が絡み合っており、性別や年齢、職業などの属性の束では括れない多様な立場を生きる人が、複合的に生活上の困難を抱えている状況が浮き彫りになりました。



グループインタビュー

● パーソナル・サポートシステムの構築を目指して

この地域課題の解決に向けて私達に求められるのは、公的相談窓口にはアクセスできない人や公的サービスの隙間で支援がうけられない人が、それぞれが望む心地よいつながりの中で、困り事や悩みを気軽に相談できる人・場・機会を提供する活動だということに辿り着きました。

そこで、「奄美市におけるワーク・ライフバランスの実現を目指す「パーソナル・サポートシステム構築のための、人と人がゆるやかに、つながる場づくり」事業」構想をとりまとめ、資源調査や行政、他団体との協働のための調整を経て経営計画を策定。そのプレゼンテーションを市職員やNPOのメンバー等市民に対して行いました。

● 男女共同参画の理解を深め、300名の人的資源を活かす

ここまで到達できたのは、事業アドバイザーをお願いしたもつゆかりさんから「男女共同参画の視点」や「協働」について徹底した研修を受けることができ、団体内で共通認識を持つことができたからです。離島であるために学習機会が限られている私達にとって、大変貴重な経験になりました。

そこで認識したことは、私たち自身が、「男女共同参画」について、分かっているようで確かに理解していなかったということです。これが、活動が行き詰まる原因のひとつでした。これまでの抽象的な啓発活動から、男女共同参画社会の形成に影響を及ぼす具体的な課題に焦点を当てた実践活動に転換することで、市民の男女共同参画への理解を深めることができると思います。

これまででは、とすれば一部の人の活動になっていましたが、今回の事業を通して、約300名のメンバー一人ひとりが持っている力が見えるようになりました。この豊富な人的資源を活かして、今回策定した計画に基づく地域づくり事業を展開していきます。

グループ紹介

鹿児島ウーマンライフ研究会(鹿児島市)

鹿児島ウーマンライフ研究会は、2010年度に開催された県男女共同参画センターの「女性の働き方講座」で共に学んだ20~30代の働く女性が、自分らしい生き方や働き方をしたい、そのため、もっと学びを深めたい、職場以外の人とのネットワークを広げたいという思いから結成しました。

まずは、翌年度の「女性の働き方講座」をセンターと協働で実施。男女共同参画やアサーティブネス、コミュニケーション、働く上で知っておきたい社会状況や法制度などをテーマに、当事者感覚を大切に講座の企画・運営に努めました。同世代の女性達に、男女共同参画と出会い、自分らしく生きるための主体的な学びを深めてもらう機会を提供でき、受講者の反応に活動の手応えを実感しました。ここから仲間が増えることを期待しています。

その他に講座や自主勉強会を開催し、メンバーも得意分野を活かして講師役を務めつつ、自己研鑽を図っています。また、異業種間の情報交換会の開催により、職種や年代の垣根を超えたネットワークが広がっています。

【ホームページ】<http://k-woman.jimdo.com/>



意識啓発・人材育成

男女共同参画地域協働推進講座

徳之島地区:10/22-10/23 大隅地区:12/10-12/17

地域における男女共同参画の推進に必要な知識と手法を学ぶ講座を、たもつゆかりさん(オフィスビュア代表)を講師に、徳之島町と鹿屋市で実施しました。

学校への男女共同参画お届けセミナー

上半期と合わせて、高等学校等10校が開催した「デートDV」、「アサーティブなコミュニケーション」等に関するセミナーに講師を派遣しました。



★ 事業所向け男女共同参画セミナー

12/7

職場におけるセクシュアル・ハラスメント及びパワーハラスメントの防止を目的に、県経営者協会と協働でセミナーを開催。金子雅臣さん(職場のハラスメント研究所所長)の話に、事業主や事業所の人事・労働管理担当者等151名が聴き入りしました。

★ 高校生のためのピアサポーター養成講座

12/11

鹿児島大学医学部保健科学学生サークルピア☆びあ☆かこが、男女共同参画の推進やデートDV防止のための活動を行う高校生ピア(peer:同じ立場、同じ悩みをもつ仲間)サポーターを養成する講座を開催しました。



★ 地方自治を担う女性のエンパワメントセミナー

3/10-11-17-18

政策・方針決定過程への女性の参画促進を図るため、かこしま女性政策研究会と協働で、女性の議員や自治体職員等を対象に、地方自治を学ぶ4日間の集中講義を実施。大森満さん(東京大学名誉教授)、武隈晃さん(鹿児島大学教育学部長)、有馬晋作さん(宮崎公立大学教授)等が講師を務めました。(表紙参照)

協働・連携団体意見交換会

3/14

センターと協働・連携関係にある民間団体が、それぞれの活動について意見や情報を交換し、団体間のネットワークの必要性を再確認しました。

女性の就労支援

★ 女性の働き方講座2012

1/21, 2/4・18, 3/3

20～30代女性のスキルアップと就労継続を支援するため、鹿児島ウーマンライフ研究会と協働で、森園仁美さん(キャリアカウンセラー)や高崎恵さん(ワークショップデザイナー)等が講師を務める講座や交流会を実施しました。(p2参照)



女性に対する暴力防止・被害者支援

★ デートDV防止セミナー

11/5・11/20

「なぜデートDV防止啓発に性教育が必要か」をテーマに、鹿児島純心女子大学学生サークルS&Iによるセミナーを、鹿屋市と志布志市において両市と共同開催。多くの保護者や教育関係者が参加しました。



相談業務研修会

11/22

石本宗子さん(久留米市男女平等推進センター相談コーディネーター)等を講師に、DV被害者の支援に係わる相談員や県・市町村の担当者を対象に、ジェンダーに敏感な視点を磨くための研修を実施しました。

★ 女性に対する暴力防止キャンペーン

11/12～11/25

「女性に対する暴力をなくす運動」の期間に、国際ソロプチミスト鹿児島県やS&I、ポティショップ、関係機関とともに街頭キャンペーンを実施したほか、アミュランを紫色にライトアップ。県庁舎とセンターでは、パネル展を開催しました。また、「女性のための法律110番」を実施し、女性弁護士が電話で法律相談に応じました。



自助グループのファシリテーター養成講座

3/27～3/29

川喜田好恵さん(日本フェミニストカウンセラー協会代表理事)を講師に、DV被害者の自助グループの設立と活動を運営・支援するファシリテーターを養成する講座を開催しました。

関係施策との連携

防災セミナーvol.2

12/21

昨年度に引き続き、県危機管理防災課と共同でセミナーを開催し、自治体職員や自主防災組織関係者等100名が参加。東日本大震災の被災者支援を行う宗片恵美子さん(NPO法人イコールネット仙台代表理事)の話から、防災・復興における男女共同参画の視点の必要性について理解を深めました。

男性のための地域デビュー講座

2/19

奥長寿・生きがい推進室と連携し、浦野秀一さん(轉あしコミュニティ研究所代表取締役)を講師に迎え、男性の地域における居場所と出番づくりをテーマにセミナーを開催しました。



男女共同参画に関する県民意識

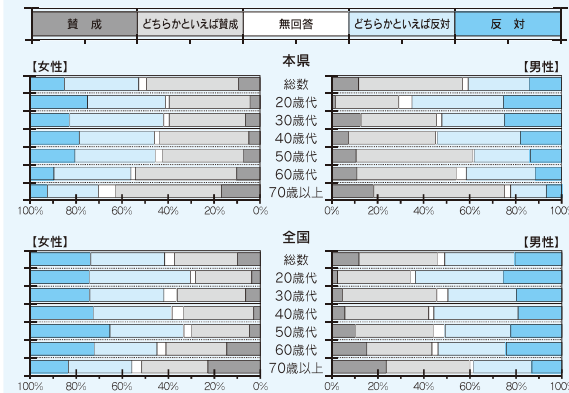
～「鹿児島県の男女の意識に関する調査」結果から～

鹿児島県では、2011年に実施した県民の男女共同参画に関する意識調査の結果を公表しました。その一部を全国調査(内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」2009年)の結果と比較して紹介します。(詳しくは、県のホームページに掲載している調査報告書をご覧ください。)

根強い固定的性別役割分担意識

● 固定的性別役割分担意識(性・年代別)

～「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について～



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的性別役割分担意識について、全国調査では、男女とも「反対」「どちらかという」と反対(以下「反対」という。)が、「賛成」「どちらかという」と賛成(以下「賛成」という。)を上回っているもの(女性は反対58.6%、賛成37.3%、男性は反対51.1%、賛成45.8%)、本県調査では、男女とも賛成が反対を上回っています。(女性は反対47.1%、賛成49.5%、男性は反対40.5%、賛成57.0%)

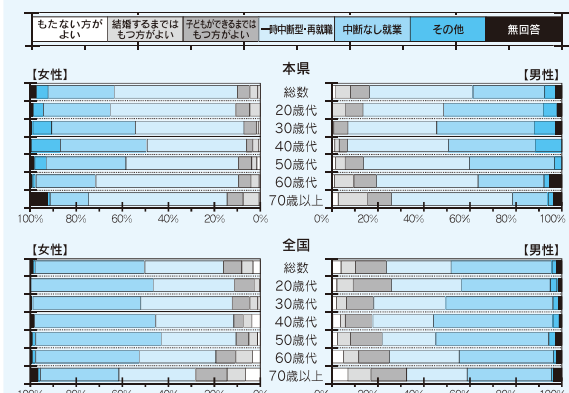
なお、先進諸国では、反対の割合の方が圧倒的に高くなっています。

また、本県の場合、同世代の男女間の意識格差に比べて世代間の格差の方が大きいことが全国より顕著で、男性の50歳代以上、女性の60歳代以上の固定的性別役割分担意識が根強いという結果になっています。同年代の男女間で意識格差が最も大きいのは50歳代です。

一方、別の調査項目では、家庭や職場、地域社会において「男性の方が優遇されている」と不平等感を感じている人が多いという結果が得られていることから、固定的性別役割分担意識がその背景にあるという認識は薄いということが考えられます。

女性が働くことに対する意識の壁

● 女性が職業をもつことについての意識(性・年代別)



女性の働き方として、「子どもができてもずっと職業を続ける方がいい(中断なし就業)」の支持が、全国調査では女性が47.6%、男性が44.0%を占めているのに対して、本県調査では、女性が29.0%、男性が31.3%に止まる一方、「子どもができたなら仕事を辞め、大きくなったら職業をもつ方がいい(一時中断型・再就職)」の支持が、女性で53.6%、男性で45.1%を占め、男性より女性の支持の方が高いという対照的な結果になっています。この結果は、本県において固定的性別役割分担意識が根強いことを反映しています。

また、性・年代別に見ると、一時中断型・再就職について、20歳代女性と60歳代以上の女性の支持が、全国調査の同世代に比べて顕著に高いことも特徴です。

なお、働き方の選択は、性別にかかわらず個人に委ねられるべきものであることは言うまでもありません。

固定的性別役割分担意識の解消を目指して

固定的性別役割分担意識は、個人の働き方の選択を狭め、一人ひとりが性別にかかわらず個性や能力を発揮して自分らしく生きることを阻害します。その根強い意識の解消を図るため、一人ひとりが自らの男女平等意識に真摯に向き合うことが求められます。

※凡例の「無回答」は、全国調査では「わからない」

男女共同参画地域推進員が 新たに誕生しました!

2011年度は、市町村長の推薦を受けた22名の方が、新たに県知事から男女共同参画地域推進員の委嘱を受けました。これによって、地域推進員は、2年の任期後再委嘱された方と任期2年目の方を合わせ総勢68名になりました。各地の男女共同参画の推進役として活動していただいています。



サポーター's コーナー

託児サポーター活動スタート

託児サポーター養成講座を修了して誕生した託児サポーターが活動を開始、「女性の働き方講座2012」(全4回)の受講者のお子さんをお預かりしました。



センターサポーター「つぶや木」作製

事業運営サポーターの皆さんが、男女共同参画基礎講座の受講者が綴った日常の中の気づきや想いを「言葉」にして、「つぶや木」を作りました。センターで展示した後、各地のイベントを巡回しています。



サポーター募集中!

センターの事業運営や情報発信をサポートしていただいたり、参加者の託児をしていただくボランティアスタッフを募集します。一緒に活動してみませんか?
※詳しくはセンターにお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

相談室 から

東日本大震災から1年

東日本大震災から1年。この間、防災セミナー(P3参照)等の研修機会や被災地から女性たちによって発信される情報等を通じて、ほとんど報道されることのない被災地の状況を知ることができました。

非常時に顕現化・深刻化する日常の性別に起因する問題

避難所は、男性中心の運営で女性の声や反映されにくかったり、男性が有償の復興作業に出かける一方、女性には無休無償の子どもや高齢者の世話と避難所全員のまかないが割り当てられるなど性別役割分担が強化。DVの深刻化や性犯罪の発生、職場の解雇等で女性たちは過酷な状況に直面しました。また、病氣や高齢で復興作業に参加できなかったり、地域との関係が希薄だった男性は孤立感を深め、家事能力の不足が仮設住宅での生活を困難に。日常にあった固定的性別役割分担意識や男女格差に起因する問題が震災によって顕現化・深刻化し、今も被災者の回復を阻んでいます。

共に生きる者として一人ひとりに寄り添う被災者支援の現場
また、同じ地域で暮らす支援する側と支援される側それぞれに厳しい現実があります。支援する側にも見える被災の程度に違いはあっても同じ被災者であるもの、支援の現場で「あなたには私の痛みはわからない」と行き場のない感情をぶつけられることも。それでも、一人ひとりの被災者に寄り添い、地道に信頼関係を築きながら、その回復を支援する方々の姿に、相談員として大切なことを教えられるます。

「絆」の功罪

ところで、今回の震災は、私たちに人と人のつながりの大切さを再認識させました。しかし、マスコミをはじめ社会が「絆」を強調するたびに、孤独を深めている人がいることに敏感である必要があります。震災によって関係が大きく揺らいでしまった夫婦や親子がいます。そして、震災で家族を失い、「家族の絆」という言葉を聞くたびに自分が社会から取り残されていくように感じている人がいます。また、一人つながりを持って生きることの困難を抱えている人が多いことを、私たちの日常の相談現場でも日々実感しています。多様な立場を生きている一人ひとりが尊重され、必要な時に確かにつながることができるといえる緩やかな人と人との絆が求められています。

今もなお多くの困難を抱える被災された方々の心身の回復と生活の再建、そして、まちの復興が1日も早く果たされることを心から願っています。

一般相談

【電話相談】099-221-6630-6631
水～日曜日/9:00～17:00
火曜日・休館日翌日/9:00～20:00
【面接相談】予約が必要

専門相談

【法律相談】第1・3火曜日(面接)
【メンタルヘルス相談】第3木曜日(面接)
【男性相談】第2土曜日(電話・面接)
※いずれも予約が必要

電話による
男性相談も
スタート

びあ・すてーしょん

鹿児島大学医学部保健学科サークル「ピア☆びあ☆ごしま」が、同世代の若者の相談に応じます。気軽に立ち寄ってみてください。
【日時】毎月第3土曜日/14:00～16:00 【場所】かごしま県民交流センター1階男女共同参画サロンミーティングルーム

センターでは、DV被害者同士が気持ちや情報を分かち合い、支え合うことができる自助グループの活動をサポートします。詳しくは相談室にお問い合わせください。また、男性相談員による男性のための電話及び面接相談を行っています。夫婦のこと、家庭のこと、仕事のこと、生きづらさを感じていたら相談してみませんか。

2012年度の センター事業

主な事業を
紹介します。

★は、民間団体との協働(共催)事業
場所の記載のないものは、かごしま県民交流センターで実施し、託児サービスがあります。

上半期

男女共同参画基礎講座

【期日】6月9日(土)・6月16日(土)・6月30日(土)・7月7日(土)
(全4回)

【時間】いずれも13:15～16:45
※オプションプログラムを実施(6/30・7/7 10:30～12:00)

【対象】全回受講できる方(先着60名)

【内容】男女共同参画についての基礎知識や地域で男女共同参画を推進するための実践活動に必要なスキルを学ぶ。

【講師】たもつゆかりさん(オフィスビュア代表)
高崎恵さん(ワークショップデザイナー)

★DV被害者を支援する 相談員等スキルアップ研修会

【期日】6月19日(火)・20日(水)

【対象】DV被害者支援に関わる相談員等(先着30名)

【目的】DV被害者を支援するために必要な知識の習得とワークショップを通したスキルアップ

【講師】スーザン・アームストロング
(教育学修士、クリニカルカウンセラー)

【共催】特定非営利活動法人女性人権機構

★男女共同参画週間事業

【期間】7月24日(火)～7月31日(火)

【内容】県男女共同参画週間(7/25～7/31)にちなみ、男女共同参画を体感するワークショップ等を開催。

男女共同参画地域協働推進講座

【期日】(未定)2日間

【場所】沖永良部地区

【内容】地域における男女共同参画の推進に必要な知識と手法等を学ぶ。

【講師】たもつゆかりさん(オフィスビュア代表)

★デートDV防止セミナー

【期日】8月下旬

【対象】教職員等教育関係者

【目的】デートDV防止教育を実践する指導者の養成

【実施団体】鹿児島純心女子大学生会サークル S & I

下半期

相談業務研修会

【期日】11月

【対象】暴力被害者支援に係わる相談員や県・市の担当者

【内容】相談対応に求められるジェンダー視点を磨くための研修

女性に対する暴力防止キャンペーン

【女性に対する暴力をなくす運動】(11月12日～11月25日)

○街頭キャンペーン(★)

【期日】11月12日(月) (場所)鹿児島中央駅前

【実施団体】国際ソロプチミスト鹿児島等関係団体・機関

○アミュラン点灯 11月12日(月)・25日(月)

○女性のための法律110番(弁護士による電話相談対応)

【日時】11月20日(火) 10:00～16:00

【予約電話番号】099-221-6630

○パネル展

11月12日(月)～25日(月) かごしま県民交流センター

11月1日(水)～25日(月) 県庁展望ロビー

★高校生のためのピアサポーター養成講座

【期日】12月 (対象)高校生

【目的】悩みや問題を抱える同年代をサポートすることのできる高校生の養成

【実施団体】鹿児島大学医学部保健学科学生サークル
ピア☆びあ☆ごしま

★事業所向け男女共同参画セミナー

【期日】1月

【対象】事業主、事業所の人事担当者等

【テーマ】女性のポジティブ・アクション

★女性の働き方講座2013

【期日】1月～2月

【目的】女性の就労の継続やキャリアアップ、再就職等を支援する。

年間を通して

学校への男女共同参画お届けセミナー

【期日】平成24年7月～平成25年3月

【場所】高等学校等(派遣校を募集します。)

【対象】生徒、教職員、保護者

【テーマ】男女共同参画、デートDV防止等

★男女共同参画の地域づくり協働事業

民間団体による男女共同参画の視点を立てた地域課題解決型実践活動を支援します。

新着図書・DVD情報

新しい本とDVDが図書コーナーに入りました。

※新着図書一覧はホームページに掲載中です。

女性を活用する国、しない国

先進国の中でも女性の社会進出が断トツで遅れている日本。女性の参画が必要な背景を明らかにするとともに、何が事態の進展を阻んでいるのかを検証し、「女性活用小国」からの脱出法を探ります。



竹信 三恵子著
岩波書店(2010年9月)

正しいパンツのたたみ方 ～新しい家庭科勉強法～

生活力は多様性を認めることから。子どもたちの生きる力を育む家庭科の実践が紹介され、こんな素敵な授業だったら受けてみたい!と思わずにはいられません。教育関係者のみならず、是非ご一読を。



南野 忠晴著
岩波書店(2011年2月)

モモタロー・ノー・リターン&サルカニ・バイオレンス

「桃太郎」をはじめ誰もが知っている昔話をモチーフに、男女共同参画やジェンダー、子育て、DVなどの現代的テーマをわかりやすく解説。ジェンダーや固定観念に縛られたこの社会の生きにくさに気づかせてくれます。



奥山 和弘著
十月舎、星雲社(2011年5月)

6stories (※DVD)

県内在住男女6人の男女共同参画との出会いと学びの足跡を迎えるインタビューショートムービー。2011年の男女共同参画週間にちなみ製作・上映されました。上映会では、製作者に解説を行っていただきます。



かごしま女性政策研究会
製作(2011年7月)

ニュース



デートDV防止等啓発ハンドブック 「あなたのココロとカラダを大切に」を作成しました!

デートDV防止の活動を行っている鹿児島純心女子大学学生サークルS&Iの協力を得て、デートDV防止やリプロダクティブヘルス/ライツ等について取り上げた冊子を作成し、成人式(23市町村)や大学・高等学校等(26校)で配布していただきました。御希望の学校や団体は御連絡ください。



情報提供・交流サロンのご案内

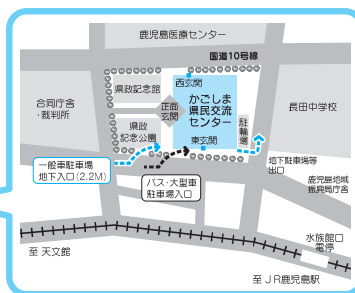
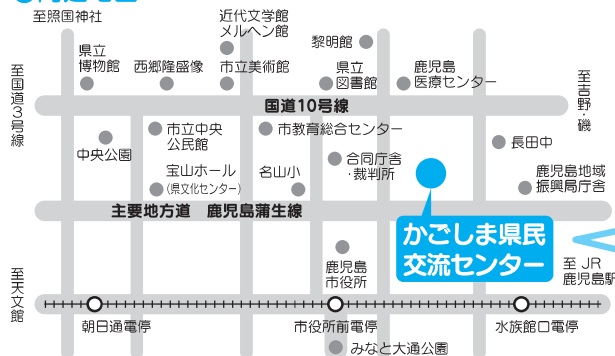
《図書等の閲覧・貸出》

男女共同参画に関する図書の貸出は、1人5冊までで期間は3週間以内です。団体等へはDVDの貸出も行っています。

《ミーティングルーム》

男女共同参画に関する学習会等に御利用いただけます。(要予約)
《休館日》月曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日～1月3日
《利用時間》9:00～17:00

●周辺地図



交通案内

【JR】

鹿児島駅から徒歩……………約10分
鹿児島中央駅から市電・バスを利用…約15分

【市電・バス】

「市役所前」又は「水族館口」下車徒歩…約5分

【駐車場】

約530台収容 150円/30分
※センター利用者は2時間まで無料

編集・発行

鹿児島県男女共同参画センター

(かごしま県民交流センター内) 〒892-0816 鹿児島市山下町14-50

●ハーモニーは、ホームページにも掲載しています。

電話 099-221-6608
ファックス 099-221-6640
メールアドレス harmony@kagoshima-pac.jp
ホームページ http://www.kagoshima-pac.jp

